

【アバディーン・ファンド・セレクション】 海外高格付け債ファンド

Aコース：為替ヘッジあり

Bコース：為替ヘッジなし

追加型投信／海外／債券

交付運用報告書

第33期

決算日：2015年6月10日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

【アバディーン・ファンド・セレクション】海外高格付け債ファンドAコース（為替ヘッジあり）／Bコース（為替ヘッジなし）は、2015年6月10日に第33期の決算を行いました。

当ファンドは、世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資します。

「Aコース（為替ヘッジあり）」は実質外貨建資産に対して通貨配分に合わせた為替ヘッジを行い、

「Bコース（為替ヘッジなし）」は原則として為替ヘッジを行いません。当期も方針に沿った運用を行いました。ここに運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

本書記載事項以外の詳細な内容を記載した運用報告書（全体版）は当社ホームページ（右記アドレス）でご覧いただけます。

書面での交付をご希望の場合には、販売会社を通じて交付いたします。

右記ホームページの左端にある「ファンド情報」のメニューから「運用報告書」を選択することにより、当ファンドの運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。

第33期末（2015年6月10日）	Aコース	Bコース
基準価額	10,456円	14,306円
純資産総額（百万円）	1,117	3,139
作成対象期間（2014年12月11日～2015年6月10日）		
騰落率 （分配金（税込み）再投資後）	-2.5%	-2.1%
分配金	60円	80円

アバディーン投信投資顧問株式会社

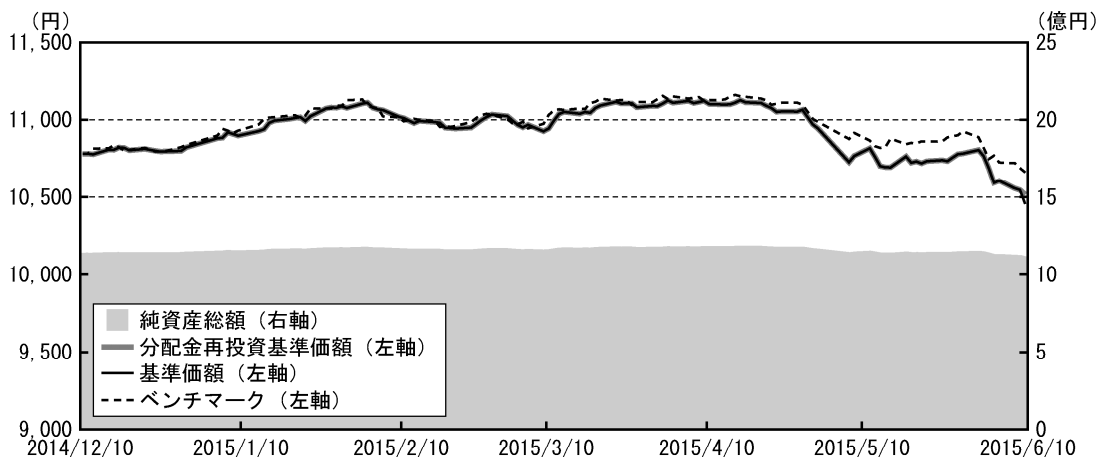
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-3 虎ノ門清和ビル
お問い合わせ窓口 03-4578-2251

（受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。）
インターネット・ホームページ <http://www.aberdeen-asset.co.jp>

● <Aコース（為替ヘッジあり）> 運用経過

当期中の基準価額等の推移について

ファンド	当ファンドは第33期の決算を迎え、基準価額は前期末の10,782円から当期末には分配金60円込みで10,516円、値下がり額は266円、当期の騰落率は2.5%の下落となりました。
ベンチマーク	ファンドの騰落率は、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス（除く日本/円ヘッジベース）の下落率1.1%を1.4%下回りました。



- (注1) ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標）は、『シティ世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジベース）』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

第33期首	10,782円
第33期末	10,456円（既払分配金60円）
騰落率	-2.5%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

上昇要因	世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資し、2015年4月中にドイツを中心に欧米先進国の国債利回りが一時過去最低レベルまで低下し、基準価額の上昇要因になりました。
下落要因	欧州を中心として世界的に債券の利回りがやや上昇したことによる保有債券の値下がりや、ユーロが対円やドルで下落し、ポートフォリオのほぼ半分を占めるユーロ建ての債券が基準価額の下落要因になりました。

1万口当たりの費用明細

項目	第33期 (2014年12月11日～ 2015年6月10日)		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
平均基準価額	10,962	—	期中の平均基準価額です。
信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	74 (36) (35) (3)	0.674 (0.328) (0.319) (0.027)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料 (先物・オプション)	1 (1)	0.009 (0.009)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	4 (2) (2) (0)	0.036 (0.018) (0.018) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人に支払うファンド監査に係る費用
合計	79	0.719	

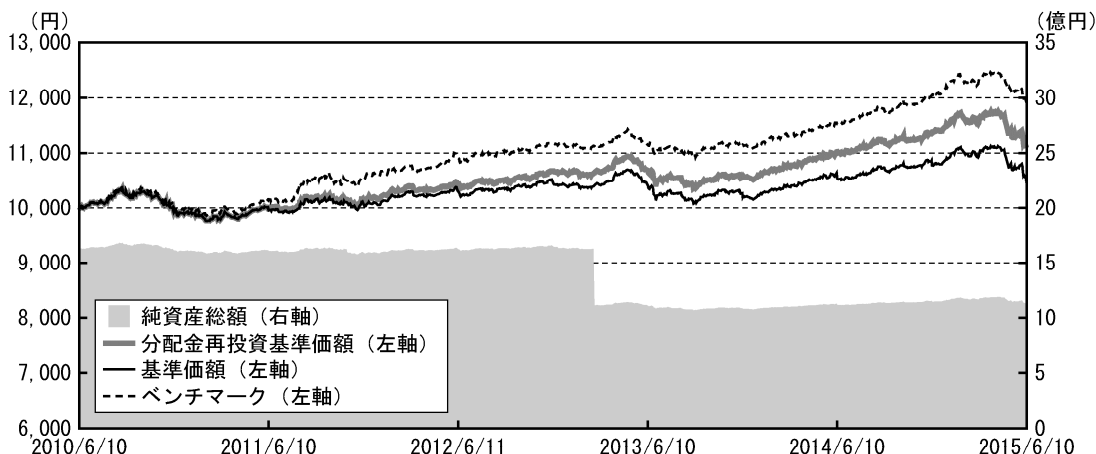
(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注3) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 項目毎に円未満は四捨五入し、単位未満は0円と表示しています。

最近5年間の基準価額等の推移について



- (注1) ベンチマーク (ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標) は、『シティ世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジベース)』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、2010年6月10日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

最近5年間の年間騰落率

決算日	2010年6月10日	2011年6月10日	2012年6月11日	2013年6月10日	2014年6月10日	2015年6月10日
分配落ち基準価額 (円)	10,013	9,954	10,276	10,403	10,548	10,456
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	50	100	130	180	160
分配金再投資基準価額騰落率	—	-0.1%	4.3%	2.5%	3.2%	0.6%
ベンチマーク騰落率	—	1.4%	7.4%	2.2%	3.4%	3.3%
純資産総額 (百万円)	1,627	1,605	1,620	1,107	1,116	1,117

投資環境について

2014年12月から欧州主要国ではECBの国債買入れ期待から利回りは大きく低下し、2015年1月に入ると世界的に利回りが急低下し、10年債利回りで米国2.0%、英国1.5%、ドイツ0.5%を下回りました。

3月から国債の買入れが開始されたユーロ圏を中心に、4月には欧州で月央に大きく利回りが低下した反動から、月末にかけては前月末を上回る水準へと急上昇になり、5月も不安定な動きとなりました。為替相場では、ギリシャ政局等を懸念したユーロ安の一方で、米ドルの全面高が進行し、2015年1月にユーロとのペッグ制を撤廃したスイスフランも高くなりました。円は対ユーロおよびオーストラリア・ドルでは高く、対米ドルでは安くなりました。

ポートフォリオについて

F S海外高格付け債マザーファンドへの投資比率を高位に保ち、実質的な運用はマザーファンドで行いました。なお、Aコース（為替ヘッジあり）については期を通じてほぼフルヘッジを継続しました。

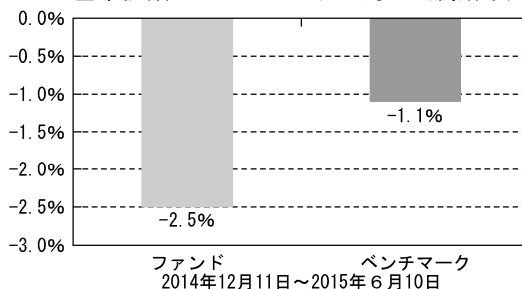
マザーファンドの運用につきましては全般にベンチマークを意識し、通貨配分は、米ドルのオーバーウェイトおよびユーロのアンダーウェイトのポジションを保ち、地域／国別配分は、利回りが低下した英国から、比較的金利水準の高いオーストラリアへ大きく振り替えました。修正デュレーションは、英国がベンチマーク比でこれまでの短期化から大きく長期化にシフトしましたが、ポートフォリオ全体のデュレーションはベンチマークに対しほぼ中立を維持しました。

ベンチマークとの差異について

ファンドの騰落率は、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス（除く日本／円ヘッジベース）の下落率1.1%を1.4%下回りました。

主なプラス要因としては、地域／国別配分で、イタリアおよびスペインをオーバーウェイトしていた時期が長く、債券利回りが大幅に低下した時期はプラスに寄与しました。一方で、主なマイナス要因としては、修正デュレーションはポートフォリオ全体ではほぼ中立を維持しましたが、短期化していた英国においてマイナス寄与となりました。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



分配金について

Aコースは基準価額の水準等を勘案し、第33期末に60円（税引前）の収益金を支払いました。なお、収益分配に充てなかった利益は信託財産に留保し、留保金の運用については、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・％、1万口当たり・税引前）

	第33期 (2014年12月11日～2015年6月10日)
当期分配金	60
（対基準価額比率）	0.571%
当期の収益	60
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	921

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

●今後の運用方針について

F S 海外高格付け債マザーファンド受益証券を通じて、今後とも高い実質外国公社債組入比率を維持する予定です。同マザーファンドにおいては、米国をアンダーウェイトする以外は概ねベンチマークに対し中立を基本とする予定です。なお、修正デュレーションについては、ベンチマーク比で中立水準もしくは短期化としていく方針です。

金利の見通しとしては、米国では利上げ開始時期を巡る思惑に影響を受けやすくレンジ内の動きを想定していますが、欧州では量的緩和局面の終了が前倒しされる状況にはないと思われるため、徐々に落ち着きどころを探りながら、金利が低下に向かう展開が続くと考えています。

為替については、行き過ぎた円安に対してはそれを牽制する動きも予想されることから、円は対ドルでは一方的な円安局面にはならないと考え、対ユーロでもギリシャの債務不履行に対する不透明感などがユーロの上値抑制要因になると見えています。

●お知らせ

該当事項はありません。

●当ファンドの概要

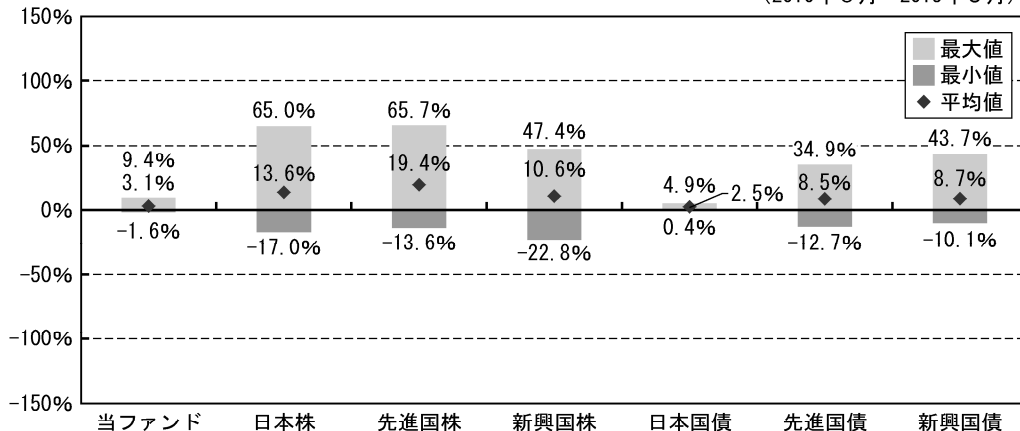
商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資します。「Aコース（為替ヘッジあり）」は実質外貨建資産に対し、通貨配分に合わせた為替ヘッジを行い、「Bコース（為替ヘッジなし）」は、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	海外高格付け債ファンド Aコース（為替ヘッジあり） Bコース（為替ヘッジなし）	F S 海外高格付け債マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	F S 海外高格付け債マザーファンド	日本を除く先進主要国の各種投資適格債（「B B B -」格以上の債券）を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	海外高格付け債ファンド Aコース（為替ヘッジあり） Bコース（為替ヘッジなし）	マザーファンド受益証券の組入れには制限を設けません。
	F S 海外高格付け債マザーファンド	①外貨建資産の投資割合には制限を設けません。 ②株式への投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	毎決算時（原則として毎年6月10日および12月10日）に、経費控除後の利子等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額の水準等を勘案して分配を行います。ただし、分配金は税金を差引いた後、自動的に全額再投資されます。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

●参考情報

当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2010年6月～2015年5月)



*2010年6月～2015年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンド及び代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したとみなす分配金再投資基準価額により計算され、実際の基準価額に基づく騰落率とは異なる場合があります。騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

*各資産クラスの指数

- 日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
- 先進国株・・・MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)
- 新興国株・・・MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)
- 日本国債・・・シティ日本国債インデックス
- 先進国債・・・シティ世界国債インデックス (除く日本・円ベース)
- 新興国債・・・J PモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)

注：海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 「東証株価指数 (TOPIX)」に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、「TOPIX」の算出もしくは公表の停止または「TOPIX」の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- 「MSCI コクサイ・インデックス」および「MSCI エマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「シティ日本国債インデックス」および「シティ世界国債インデックス (除く日本・円ベース)」は、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。
- 「J PモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド (円ベース)」とは、J.P.Morgan Securities Inc. が算出し公表している指数です。当指数の著作権は、J.P.Morgan Securities Inc. に帰属します。

● ファンドのデータ

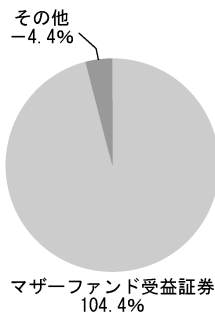
当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド

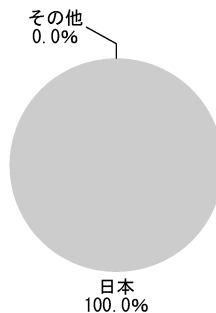
海外高格付け債ファンド Aコース (為替ヘッジあり)	比率%
F S 海外高格付け債マザーファンド	104.4
コール・ローン等、その他	-4.4

種別配分等

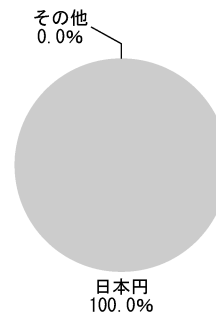
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2015年6月10日現在のものです。

(注2) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

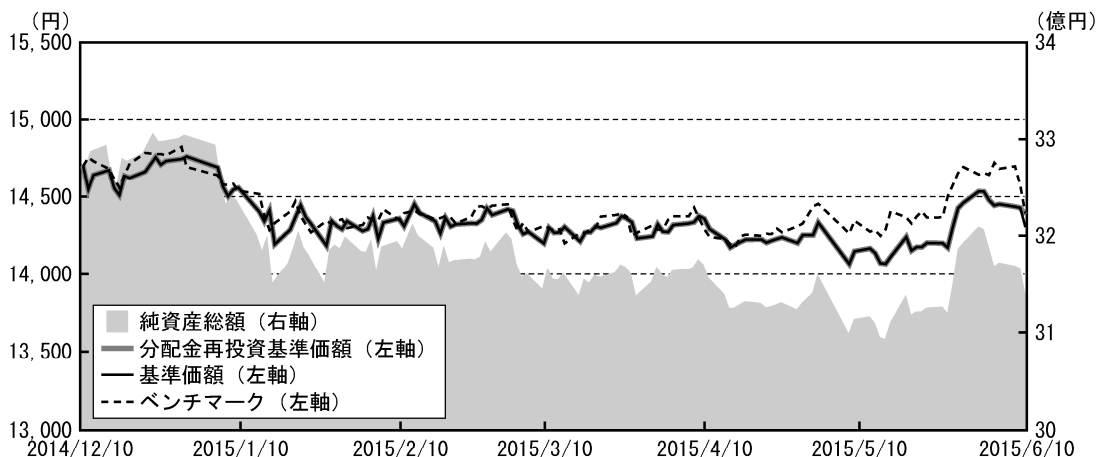
項目	第33期末 (2015年6月10日)
純資産総額	1,117,756,250円
受益権総口数	1,069,057,732口
1万口当たり基準価額	10,456円

(注) 当期における追加設定元本額は11,837,362円、同解約元本額は2,188,194円です。

● <Bコース（為替ヘッジなし）> 運用経過

当期中の基準価額等の推移について

ファンド	当ファンドは第33期の決算を迎え、基準価額は前期末の14,701円から当期末には分配金80円込みで14,386円、値下がり額は315円、当期の騰落率は2.1%の下落となりました。
ベンチマーク	ファンドの騰落率は、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス（除く日本/円ベース）の下落率2.1%とほぼ同じになりました。



- (注1) ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標）は、『シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

第33期首	14,701円
第33期末	14,306円（既払分配金80円）
騰落率	-2.1%（分配金再投資ベース）

基準価額の主な変動要因

上昇要因	世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資し、2015年4月中にドイツを中心に欧米先進国の国債利回りが一時過去最低レベルまで低下し、基準価額の上昇要因になりました。
下落要因	欧州を中心として世界的に債券の利回りがやや上昇したことによる保有債券の値下がりや、ユーロが対円やドルで下落し、ポートフォリオのほぼ半分を占めるユーロ建ての債券が基準価額の下落要因になりました。

1万口当たりの費用明細

項目	第33期 (2014年12月11日～ 2015年6月10日)		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
平均基準価額	14,421	—	期中の平均基準価額です。
信託報酬	97	0.673	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（委託会社）	(47)	(0.326)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(46)	(0.319)	情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
（受託会社）	(4)	(0.028)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
売買委託手数料	1	0.007	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（先物・オプション）	(1)	(0.007)	
その他費用	3	0.021	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(2)	(0.014)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(1)	(0.007)	監査費用は、監査法人に支払うファンド監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.000)	
合計	101	0.701	

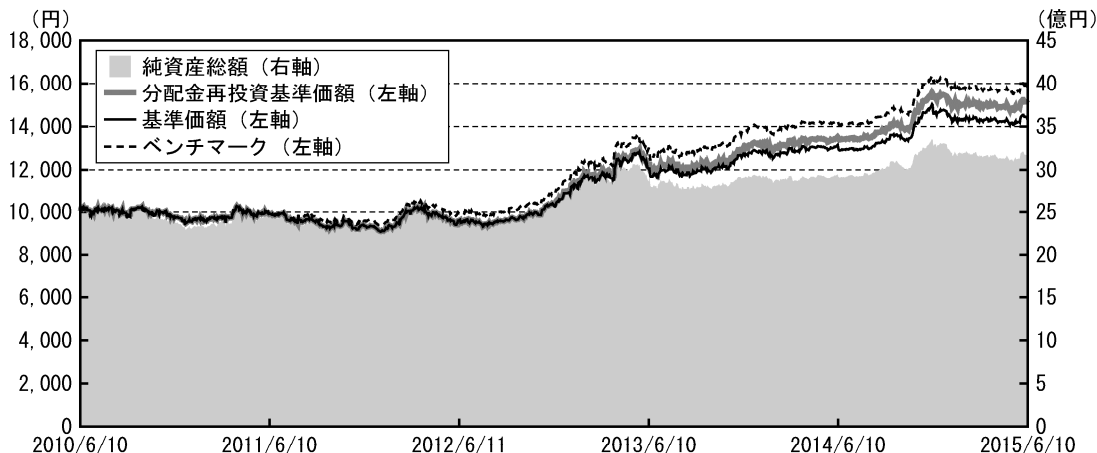
(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注3) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 項目毎に円未満は四捨五入し、単位未満は0円と表示しています。

最近5年間の基準価額等の推移について



- (注1) ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標）は、『シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）』です。ベンチマークは、基準価額への反映を考慮して基準日前営業日の終値を採用し、2010年6月10日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

最近5年間の年間騰落率

決算日	2010年6月10日	2011年6月10日	2012年6月11日	2013年6月10日	2014年6月10日	2015年6月10日
分配落ち基準価額（円）	10,051	9,927	9,633	12,012	13,004	14,306
期間分配金合計（税込み）（円）	—	0	0	230	210	230
分配金再投資基準価額騰落率	—	-1.2%	-3.0%	27.3%	10.0%	11.8%
ベンチマーク騰落率	—	-1.3%	0.1%	31.0%	9.0%	11.8%
純資産総額（百万円）	2,433	2,437	2,413	2,848	2,910	3,139

投資環境について

2014年12月から欧州主要国ではECBの国債買入れ期待から利回りは大きく低下し、2015年1月に入ると世界的に利回りが急低下し、10年債利回りで米国2.0%、英国1.5%、ドイツ0.5%を下回りました。

3月から国債の買入れが開始されたユーロ圏を中心に、4月には欧州で月央に大きく利回りが低下した反動から、月末にかけては前月末を上回る水準へと急上昇になり、5月も不安定な動きとなりました。為替相場では、ギリシャ政局等を懸念したユーロ安の一方で、米ドルの全面高が進行し、2015年1月にユーロとのペッグ制を撤廃したスイスフランも高くなりました。円は対ユーロおよびオーストラリア・ドルでは高く、対米ドルでは安くなりました。

ポートフォリオについて

F S 海外高格付け債マザーファンドへの投資比率を高位に保ち、実質的な運用はマザーファンドで行いました。

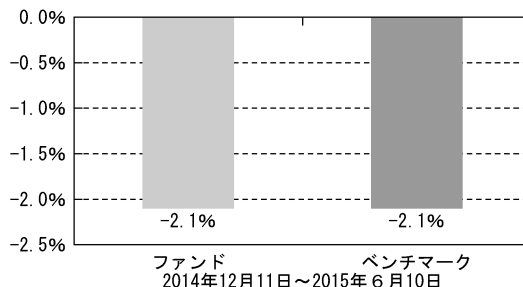
マザーファンドの運用につきましては全般にベンチマークを意識し、通貨配分は、米ドルのオーバーウェイトおよびユーロのアンダーウェイトのポジションを保ち、地域／国別配分は、利回りが低下した英国から、比較的金利水準の高いオーストラリアへ大きく振り替えました。修正デュレーションは、英国がベンチマーク比でこれまでの短期化から大きく長期化にシフトしましたが、ポートフォリオ全体のデュレーションはベンチマークに対しほぼ中立を維持しました。

ベンチマークとの差異について

ファンドの騰落率は、ベンチマークであるシティ世界国債インデックス（除く日本／円ベース）の下落率2.1%とほぼ同じになりました。

主なプラス要因としては、地域／国別配分で、イタリアおよびスペインをオーバーウェイトしていた時期が長く、債券利回りが大幅に低下した時期はプラスに寄与しました。また、通貨配分において、米ドルのオーバーウェイトおよびユーロのアンダーウェイトのポジションは、米ドルの全面高でプラス寄与となりました。一方で、主なマイナス要因としては、修正デュレーションはポートフォリオ全体でほぼ中立を維持しましたが、短期化していた英国においてマイナス寄与となりました。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



分配金について

B コースは基準価額の水準等を勘案し、第33期末に80円（税引前）の収益金を支払いしました。なお、収益分配に充てなかった利益は信託財産に留保し、留保金の運用については、特に制限を設けず元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

（単位：円・％、1 万口当たり・税引前）

	第33期 (2014年12月11日～2015年6月10日)
当期分配金	80
（対基準価額比率）	0.556%
当期の収益	80
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	6,301

（注1）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

（注2）円未満は切捨てており、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」（税込み）に合致しない場合があります。

（注3）当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

●今後の運用方針について

F S 海外高格付け債マザーファンド受益証券を通じて、今後とも高い実質外国公社債組入比率を維持する予定です。同マザーファンドにおいては、米国をアンダーウェイトする以外は概ねベンチマークに対し中立を基本とする予定です。なお、修正デュレーションについては、ベンチマーク比で中立水準もしくは短期化としていく方針です。

金利の見通しとしては、米国では利上げ開始時期を巡る思惑に影響を受けやすくレンジ内の動きを想定していますが、欧州では量的緩和局面の終了が前倒しされる状況にはないと思われるため、徐々に落ち着きどころを探りながら、金利が低下に向かう展開が続くと考えています。

為替については、行き過ぎた円安に対してはそれを牽制する動きも予想されることから、円は対ドルでは一方的な円安局面にはならないと考え、対ユーロでもギリシャの債務不履行に対する不透明感などがユーロの上値抑制要因になると見えています。

●お知らせ

該当事項はありません。

●当ファンドの概要

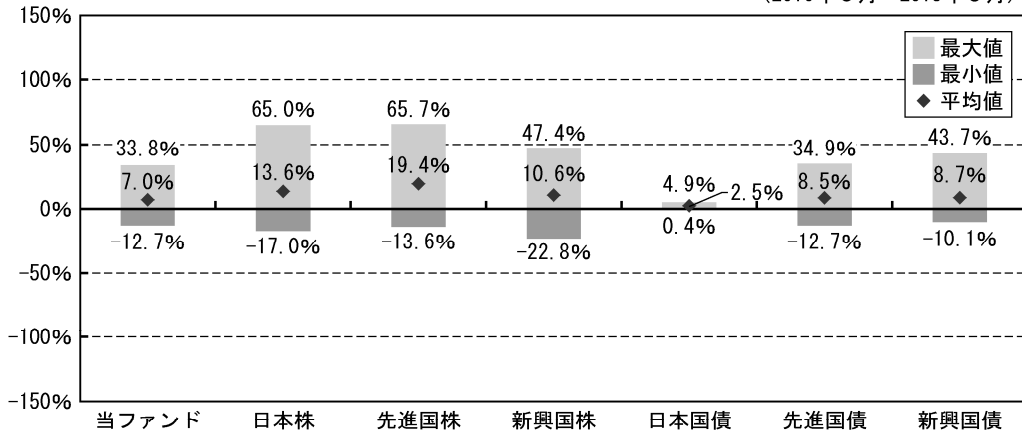
商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	無期限	
運用方針	世界主要国（日本を除く）の国債をはじめとした各種投資適格債に分散投資します。「Aコース（為替ヘッジあり）」は実質外貨建資産に対し、通貨配分に合わせた為替ヘッジを行い、「Bコース（為替ヘッジなし）」は、原則として為替ヘッジを行いません。	
主要投資対象	海外高格付け債ファンド Aコース（為替ヘッジあり） Bコース（為替ヘッジなし）	F S 海外高格付け債マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	F S 海外高格付け債マザーファンド	日本を除く先進主要国の各種投資適格債（「B B B -」格以上の債券）を主要投資対象とします。
当ファンドの運用方法	海外高格付け債ファンド Aコース（為替ヘッジあり） Bコース（為替ヘッジなし）	マザーファンド受益証券の組入れには制限を設けません。
	F S 海外高格付け債マザーファンド	①外貨建資産の投資割合には制限を設けません。 ②株式への投資割合は信託財産の純資産総額の10%以内とします。
分配方針	毎決算時（原則として毎年6月10日および12月10日）に、経費控除後の利子等収益および売買益（評価益を含みます。）等の中から、基準価額の水準等を勘案して分配を行います。ただし、分配金は税金を差引いた後、自動的に全額再投資されます。	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド（当ファンド）とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行う仕組みです。

●参考情報

当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2010年6月～2015年5月)



*2010年6月～2015年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンド及び代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したとみなす分配金再投資基準価額により計算され、実際の基準価額に基づく騰落率とは異なる場合があります。騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

*各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

日本国債・・・シティ日本国債インデックス

先進国債・・・シティ世界国債インデックス（除く日本・円ベース）

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

注：海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 「東証株価指数（TOPIX）」に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、「TOPIX」の算出もしくは公表の停止または「TOPIX」の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」および「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権、その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。またMSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「シティ日本国債インデックス」および「シティ世界国債インデックス（除く日本・円ベース）」は、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）」とは、J.P.Morgan Securities Inc. が算出し公表している指数です。当指数の著作権は、J.P.Morgan Securities Inc. に帰属します。

● ファンドのデータ

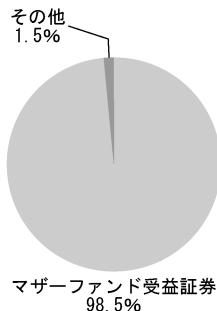
当ファンドの組入資産の内容

組入ファンド

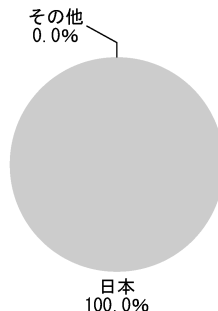
海外高格付け債ファンド Bコース (為替ヘッジなし)	比率%
F S 海外高格付け債マザーファンド	98.5
コール・ローン等、その他	1.5

種別配分等

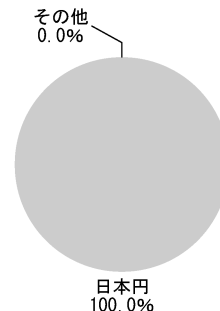
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2015年6月10日現在のものです。

(注2) 組入ファンド、資産別・国別・通貨別配分の各比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

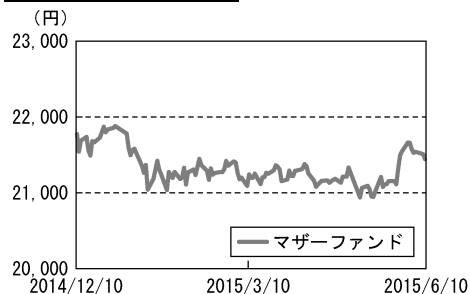
純資産等

項目	第33期末 (2015年6月10日)
純資産総額	3,139,306,700円
受益権総口数	2,194,405,482口
1万口当たり基準価額	14,306円

(注) 当期における追加設定元本額は150,003,414円、同解約元本額は183,953,246円です。

組入ファンドの概要

◇ F S 海外高格付け債マザーファンド 基準価額等の推移

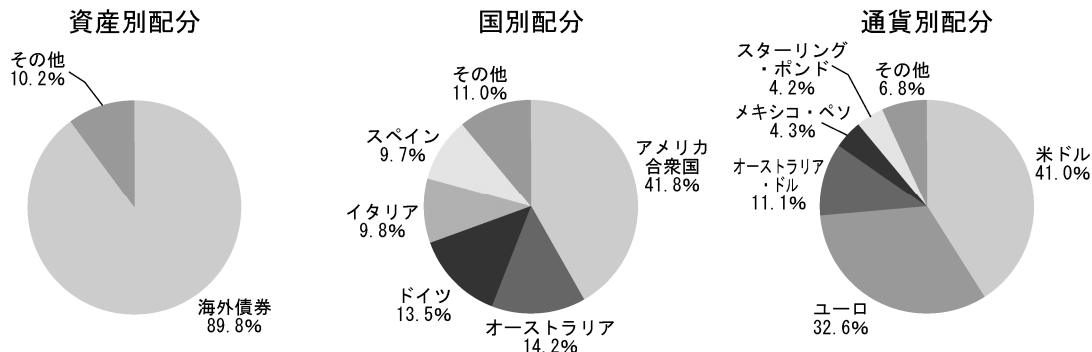


組入上位10銘柄

組入銘柄数：64

	銘柄名	クーポン	償還日	組入比率
1	0.625% US TREASURY N/B	0.625%	2016/11/15	12.2%
2	4.5% AUSTRALIAN GOVT	4.500%	2020/04/15	9.7%
3	4.8% BONOS Y OBLIG DEL ESTADO	4.800%	2024/01/31	5.6%
4	1.25% US TREASURY N/B	1.250%	2020/01/31	5.6%
5	1.5% BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	1.500%	2024/05/15	3.7%
6	3.75% US TREASURY N/B	3.750%	2043/11/15	3.5%
7	3.75% BUONI POLIENNALI DEL TES	3.750%	2024/09/01	3.3%
8	10% MEX BONOS DESARR FIX RT	10.000%	2024/12/05	3.0%
9	2.5% SWEDISH GOVT	2.500%	2025/05/12	2.8%
10	4.25% BUNDESREPUB. DEUTSCHLAND	4.250%	2018/07/04	2.8%

種別配分等



1万口当たりの費用明細

項目	マザーファンドの直近決算期 (2014年6月11日～2015年6月10日)	
	金額(円)	比率(%)
平均基準価額：20,595円		
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	2 (2)	0.010 (0.010)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	5 (5) (0)	0.024 (0.024) (0.000)
合計	7	0.034

(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2015年6月10日現在のものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の各比率は純資産総額、国別配分の比率はポートフォリオ部分に対する評価額の割合です。

(注3) 基準価額の推移は当ファンドの直近の計算期間のものです。

(注4) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ(1万口当たりの費用明細の項目の概要)をご参照ください。

*組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。